がんばろう
南三陸町
復興第８４号

南三陸マイタウン情報 月刊

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
企画・編集
志津川広報センター

第12回県東ブロックなでしこ志津川大会

５位に佐々木紀子さん（志津川）入賞

順位	No.	氏名	所属	ホール毎打数 1R 1	2	3	4	5	6	7	8	打数	ホール毎打数 2R 1	2	3	4	5	6	7	8	打数	実打数	最終打数	打数内訳 1打	2打	3打	4打	5打	6打	ホール数
1	02-27	西城悦子	気仙沼市	2	3	2	3	3	2	1	2	18	3	2	4	3	1	3	2	3	21	39	33	2	6	7	1	0	0	16
2	06-67	須藤正子	東和町	4	2	2	2	2	2	3	2	19	2	3	2	3	2	2	3	1	18	37	34	1	10	4	1	0	0	16
3	10-99	浅井恵代子	米山町	3	3	3	4	2	1	2	3	21	4	2	1	3	2	4	2	3	21	42	36	2	5	6	3	0	0	16
4	07-76	小田島カツ子	迫町	2	3	2	1	2	2	3	2	17	3	3	4	3	3	2	2	2	22	39	36	1	8	6	1	0	0	16
5	13-117	佐々木紀子	志津川	3	4	3	4	1	2	4	3	24	3	3	3	2	1	2	2	3	19	43	37	2	4	7	3	0	0	16
6	02-16	菅原信子	気仙沼市	4	3	3	4	1	2	3	4	24	3	2	3	2	1	3	2	3	19	43	37	2	4	7	3	0	0	16
7	05-53	相野谷文子	石巻市	2	3	3	2	1	2	3	2	18	3	2	3	3	2	3	3	4	23	41	38	1	6	8	1	0	0	16
8	11-107	熊谷清子	中田町	3	3	3	2	1	2	4	3	21	3	3	3	2	2	2	2	3	20	41	38	1	6	8	1	0	0	16
9	08-83	佐藤民子	いしこし	2	4	2	3	1	3	3	3	21	3	4	3	2	2	2	2	3	21	42	39	1	6	7	2	0	0	16
10	03-41	平塚美喜子	女川町	3	3	2	3	1	2	2	2	18	3	4	3	3	3	3	3	2	24	42	39	1	5	9	1	0	0	16

８月３日南三陸町戸倉公民館グランドに於いて、「第 12 回県東ブロックなでしこグランド・ゴルフ交歓志津川大会」が開催され、北は気仙沼市から南は石巻市まで、愛好家約 160 名が集まり交流を深めた。

開会式では県東ブロック連絡協の石川会長が「10 年ぶりの大会です。思い出多き一日にしましょう」「健康寿命を伸ばすスポーツです」と挨拶した。祝辞では佐藤町長が「30 度を超える気温、健康に注意して 10 年ぶりに頑張っていただきたい」と言葉を送った。山内副議長は「多くの皆様からの支援に感謝申し上げます」「試合に熱中するにあたり、お身体に気を付けて下さい」と大会を祝った。

実行委員長の阿部会長は「さわやかな風の中ですが、十分に水分補給をして下さい」と選手にルールと説明を行なった。

〈大会成績〉
１位　西城悦子さん（気仙沼市）３３打
２位　須藤正子さん（東和町）　３４打
３位　浅井恵代子さん（米山町）３６打

始球式には町長と議員９人が立ち、及川議員のホールインワンに拍手がおこった。引き続き、交歓プレーが開始された。

志津川グランド・ゴルフ協会は、体育協会に加盟となり、新しい会員を募集している。

第９２回志津川湾夏まつり 福興市

1500 発の花火が夜空を彩る

2019 年７月 27 日土曜日、12 時からのオープニングセレモニーで「志津川湾夏まつり復興市」がスタートした。

天候にも恵まれ、市場前の大通りには たくさんの出店が軒を連ねた。家族連れや着物に身を包んだ来場者が思い思いの屋台で食べ物を買い、フードコートでステージイベントを楽しんだ。

路上イベントは 15 時からの「トコヤッサイコンテスト」で、多くの来場者が７チームのパフォーマンスを楽しんだ。参加チームは
①社会福祉協議会　②志中「チームわかめ」　③台湾「ツキノワグマ」（初参加）　④志中「チーム銀ザケ」　⑤(株）行場商店　⑥志中「チームたこ」　⑦黒龍会

「黒龍会」が今年も優勝し３連勝となった
踊り・コスチューム・元気大人と子供達のコラボ
参加チームは少ないが
志津川湾夏まつりに色々な華を添えてくれた
トコヤッサイコンテスト！

志津川中学校からは 「銀さけ」「たこ」「わかめ」の３チームが参加
生徒の元気が来場者に伝わった
頑張れ「志中生！」

台湾の「国際交流」の高校生
台湾の雰囲気いっぱいに
こんな所にも震災で育まれた「絆」を感じる

「繋がる！」事の意味を
社会福祉協議会は背中の「繋」で伝えていた
黒とピンクのコスチュームがまた良かった

未来への教訓

復興！　大津波の記憶を風化させない

平成31年（2019年）
～ 地元報道より ～
４月の出来事

南三陸町

◆南三陸町教育委員会の新教育長に１日、前志津川小学校校長の齊藤明氏（60）が就任し、町役場で辞令交付が行なわれた。

◆１日南三陸町の辞令交付式がベイサイドアリーナで、職員約 250 人が出席して行なわれた。新規採用は 19 人。

◆４月から南三陸病院の内科勤務医師が１人減って、２人体制となった。町は医師確保に努めていく方針。

◆県が東日本大震災後に気仙沼・南三陸両市町で進めている。農地復旧工事が本年度内に終了する見込みとなった。
2011 年に工事に着手し、南三陸町は 460 ヘクタールが昨年度までに全て完成した。

◆５日志津川湾で、サケの稚魚約 21 万匹を放流した。

◆５日午前６時ごろ、南三陸町歌津寄木の漁業畠山健作さん（80）方の敷地内にある倉庫から出火した。倉庫２棟が全焼した。

◆南三陸町の荒島・楽天パークに、アサヒグループホールディングスからの寄付 300 万円を使って、新たな遊具２基を町が設置した。

◆南三陸町は労働力確保対策補助金として、３種類の方法で支援することにした。補助金は本年度 700 万円を予算化した。これまでの制度内容を見直す形で、東日本大震災からの復興に欠かせない働き手の確保をサポートする。

◆東日本大震災の被災地支援を行なっている国連ＮＧＯ世界平和女性連合・広島第一連合から４日、南三陸町内の新入学児童にノートや下敷きなどが贈られた。これまでは「愛の福袋」プロジェクトを行なっていたが、昨年から震災後に生れた新入学生児童への支援を始めた。今年は５小学校合わせて入学児童は 71 人。支援活動を通じて交流がある千葉印刷専務を介して、齊藤教育長に届けた。

◆戸倉地区で 10 日、今シーズン初のギンザケの水揚げが行なわれた。志津川地区でも水揚げがスタートしていて、志津川湾のギンザケ漁が本格化する。

◆10 日午前 11 時 56 分ごろ、戸倉切曽木の佐々木富士夫さん（70）の家族が経営する佐々木牧場で、わらが燃える火事があった。建物への延焼はなくケガ人もいなかった。

◆町の自然や歴史を学ぶ「南三陸子どもクラブ（仮称)」が、５月に発足する。町内の小学４年生から中学校３年生まで 15 人を公募。

◆東京電力福島第一原発事故後、韓国のホヤなど被災地の水産物輸入禁止措置が今後も継続されることに決まった。震災前は歌津地区では９割以上が韓国向けだった。ホヤの産地である気仙沼・本吉地方のホヤの生産者は、輸入禁止が続くと生産への影響が懸念され、落胆の声も上がっている。

◆南三陸病院前に植えられているシダレウメが満開となった。ウメは病院再建を支援した台湾の国花で、毎年きれいな花を咲かせている。

◆歌津地域で今シーズンの養殖ワカメの生産量が、苦戦を強いられている。昨夏の猛暑で秋に入っても水温が高かったことが要因として考えられる。栄養塩不足による生育の不良などで今季は出足からつまずいた形となった。

◆「南三陸町生涯学習センター」（志津川新井田）が 25 日開館。当日の午後からは一般の利用が可能。内部は志津川公民館と町図書館が入っていて、事務室を中心に回遊しながら両施設を利用することができる。

◆「南三陸ワインプロジェクト」の初ワインが 17 日から販売される。価格は 2500 円で、数に限りがある。地域おこし協力隊が取り組んでいたもので、新たな南三陸ブランドのＰＲに弾みがつきそうだ。

◆南三陸町産クラフトビール製造が計画されている。町の地域おこし協力隊員としてメンバー２人を、募集している。原料のホップ生産は遊休農地を活用する。

◆17 日南三陸署と南三陸地区防犯協会が、地域の防犯活動に協力する地域防犯連絡所に 48 カ所を委嘱した。任期は４月１日から 2021 年３月末までの２年間。震災以降は委嘱を行なうことができなかったが、住宅再建、コミュニティーの形成も一定程度進んできたことで、連絡所への委嘱を再開した。

◆26 日に志津川地区に整備を進めてきた「復興拠点連絡道路」が全線開通する。連絡道路は町が延長４キロの町道志津川環状線として整備。

（前ページよりの続き）

◆国内では見られるのが珍しい鳥「ヤツガシラ」が、南三陸町志津川で目撃された。ユーラシア大陸などに分布し、北方の繁殖地と南方の越冬地を行き来する際に、日本にごく少数が春、秋に旅鳥として飛来するという。

◆19 日歌津の名足こども園で、幼年消防クラブの入会式が行なわれた。園児 30 人が火遊びをしないことなどを元気に約束。幼年消防クラブは子供たちの火災予防や防災意識を育てるため、南三陸消防署管内の町内全保育所、幼稚園が加入している。

◆町立入谷小学校で、保護者や地域住民が学校運営に参画する学校運営協議会が 18 日発足した。町内初のコミュニティ・スクールとなる。コミュニティ・スクールは地方教育行政法に基づく制度で、協議会委員が学校の基本方針を共有して、学校と地域が連携しながら特色ある教育を目指す。

◆交流施設「結の里」開所１周年記念イベントが、21 日開かれた。昨年４月にオープンし、子供から高齢者までが集い触れ合う場になっている。公募した社協のマスコットキャラクターもお披露目された。

◆本年度第１弾の教育旅行で 22 日、台湾から高校生が南三陸町へ来町した。桃園市の大園国際高級中等学校で日本語を学ぶ１・２年生 35 人が、防災などについて学ぶため一泊を南三陸町滞在に充てたもの。

◆南三陸町観光協会の台湾からの教育旅行の受け入れは 15 年にスタートし、本年度は 12 月まで９校・約 300 人の受け入れが決定している。町と台湾とのつながりは、南三陸病院の再建に多額の寄付が使われたことから深まった。

◆南三陸震災伝承館「仮称・南三陸３１１メモリアル交流館」の基本計画骨子案が示され、2021 年４月の開館を目指す。
交流館の機能には、来訪者の学びの場と町民の被災体験を収集、記録などを行なう場と来訪者と町民、町民同士の語り合いの場の三つが提案された。

◆町は志津川市街地の土地区画整理事業のうち、町有地を利用する事業所などを募集。2017 年 12 月から公募を開始し、これまで４度の募集では８区画の利用が決まっている。５度目の公募では 31 区画が対象となっている。

◆23 日町役場第２庁舎で、道の駅整備推進協議会が開かれた。整備予定は南三陸さんさん商店街の北側に隣接する。駐車台数は乗用車 90 台、大型車５台、身障者用を加えた 100 台分を確保する。

◆歌津の地域交流施設「かもめ館」で、天皇陛下が退位するのに合わせ、感謝の気持ちを込めた写真展が 27 日～令和元年５月６日までおこなわれた。

◆南三陸町議会活性化特別委員会が役場会議室で、25 日開かれた。議員定数削減について話し合われ、10 月ごろをめどに結論をだす。報酬についても議論していくとした。

◆25 日開館した南三陸町生涯学習センターで図書館司書として、秋田県出身の小林朱里さんが働いている。2017 年に図書館司書として採用された。

◆志津川魚市場では、東日本大震災前から土曜日など一部を除き１日２回競りを行なってきたが、５月からは「午後売り」は原則廃止とすることとした。職員の長時間労働を解消するのが目的。

南三陸震災伝承館説明会に参加して①

南三陸町本町舎のマチドマを会場に第１回目の「震災伝承館」の基本計画の説明会には、町内から約 20 名の町民が集まり、熱心に町の構想を進めるコーディネーターによる話に耳を傾けた。

４つの基本となる考えでは、

１．被災体験を伝える。（防災情報）２．世界からの支援を伝える。（感謝）３．南三陸町は温かく多くのボランティアが来てくれた。（勇気と感動と体験を与えてくれた）「ハブとしての機能を！」４．町民が、被災者が語り合える。（語り合い、己らを誇り合う）を上げた。

ホワイトキューブ運用イメージ
（アート空間の中で）

１．生と死のはざまで深い悲しみを追体験する
アート空間で、多くの命が失われた事実に気づき、その悲しみの深淵に立ち、自らに向き合う。

２．失われた風景～着の身着のままになるということ
キューブの中に全員が入ると、照明が変わる。すべての壁と床に震災前の南三陸の景色が映し出される。やがてその風景は震災後の景色にクロスチェンジ。
◎震災前の町の姿を知り、変わり果てた被災後の風景を知る。

３．あの日、４つの場所で
南三陸町の４つの地区の人々は、全く異なる状況の中で、生きるために力を合せていた。４つの地区の住民になって、直面する事態について考え、話し合い、選択する。

４．波に囲まれて
海辺に立地していた戸倉小学校の子どもたちの避難について考える。
９日の予震による津波警報時、戸倉小ではマニュアルに従って３階建て校舎の屋上に避難した。
（本震時、あなたが教師だったら、どこに避難するだろうか？）

５．コミュニティの力
津波被害を免れた入谷地区の立場で、被災した町民たちへの緊急的サポートについて考える。

６、町内各地区での被災体験から学ぶ
歌津地区、志津川地区での町民の体験から思考する。上水道、電気などインフラの整備に携わった人々の体験。

７．その情報は真実か
正しい情報を得るために、どうすべきかを考える。混乱の中、正しい情報を把握する難しさを体験。

８．被災者と歩む
新たな価値を生み出してきた復興の中に、全国・世界への町民の深い感謝を感じる。

９．南三陸人の哲学
南三陸人の自然観、復興への矜持を知る。
（説明会資料から抜粋）

〔説明の下部写真４枚は、震災後の弊社所有の物で当時の様子として掲載しました。〕

商店街のフードコートで音楽

みちのくアンサンブルの６人

８月 31 日に「被災地に音楽を」と、関東在住の東北出身の仲間の音楽隊「みちのくアンサンブル」のメンバー６人が、フードコートでトランペットやホルンの演奏で、来場者に音楽で楽しんでいただいた。子どもたちも多く、演奏曲は「アラジン」「トトロ」など、楽しい音楽に子どもたちの笑顔があふれ、大人も嬉しいクラシック曲やクイーンの楽曲などが披露された。

福島県郡山市での演奏会から、南三陸町と明日は気仙沼市に行くと言う。震災９年目となる今も、こうした被災地を和ませる支援活動が続いていた。

志高生の元気が皆さんに笑顔を

志高生恒例の仮装行列

９月１日に一般公開される志津川高校の「旭ヶ浦祭」の告知のために、生徒約 50 名余りが仮装して行列を作り「さんさん商店街」をねり歩いた。この日は週末の土曜日、多くの来場者が商店街を散策し、飲食店のフードコートでは食事の番を待つ来場者の姿も見られた。

さんさん商店街にて

アニメやキャラクターの様々な仮装に、生徒は初めは恥ずかしいようだったが、「来て下さい」「……ありますよー！」など、自分たちのクラスごとのコーナーをアピールしていた。その他にも各部活動の発表もある。
志高の「旭ヶ浦祭」の生徒の活動を町民みんなで応援しにいきましょう。

手島郁郎の記録映画会に多くの来場者へ御礼！

６月 22 日に上映された「手島郁郎の記録」に、前回以上の来場者を迎えました。聖書のままに生きた手島郁郎の奇しき事跡を描いたもので、震災後に南三陸町で支援を続けている、仙台にキリスト教の本部を置く今野さんへの支援を、弊社社長が受皿にと支援を続けている。